



はじめのいっぽ

令和6年度
8月号

令和6年7月31日

認定こども園

東野田ちどり保育園

東野田ちどりキッズ・庁舎内

江川 永里子

昨年(126年ぶりの猛暑)以上に、厳しい暑さの夏!!がやって来ました。「暑さ指数」を確認しながらの水遊びとなりました。地域の小学校では、「風邪」での学級閉鎖が出ています。体調管理がとても難しい時ですが、夏ならではの室内遊びの工夫を加えていきます。屋上の畑はお盆前まで収穫を楽しみます。

園内には「鈴虫」がやって来ました。

可愛く響く鳴き声にパワーをもらい猛暑を皆で乗り越えたいと思います。



～アドラーより～

子どもの課題に口を出す弊害

子どもから頼まれもしないのに、親が子どもの課題に介入して口を出すと、次のような弊害がおこるかもしれません。

1. 自信を失う

子どもは、「親が手伝ってくれたから課題を解決できたけれど、もし手伝ってくれなかったら、自分ひとりでは解決できなかったんじゃないか」と感じるかもしれません。そういう体験がくり返されるうちに、「自分ひとりで人生の問題を解決する能力がないんだ」と思い込んでしまっ、自信を失うかもしれません。

これでは<自立する>という子育ての目標が達成できなくなってしまいます。

2. 依存的になる

子どもは、「なんだ、自分で考えなくても、親がかわりに考えて、課題を解決してくれるじゃないか」と感じるかもしれません。そうすると、いつでも「私にはできない。かわりに解決して!」と、依存的になってしまうかもしれません。これまた<自立する>という子育ての目標から遠ざかってしまいます。

3. 反抗的になる

積極的なタイプの子どもは、「自分でできるんだから、余計なおせっかいをしないでくれ」と感じて、反抗的になるかもしれません。そうすると、ほんとうに親や他の人の援助が必要なときでも、むきになってひとりで課題を解決しようとして、かえって失敗することだってあるかもしれません。また、他の人と調和して暮らしていくことが苦手になるかもしれず、そうすると<社会と調和して暮らす>という子育ての目標が達成できなくなります。

4. 失敗を人のせいにするようになる

課題がうまく解決できればいいのですが、解決できなかったとき、あるいは「親が手を出さうまうまかかったんだ」と言ってみたり、あるいは「親が手伝ってくれないからうまうまかかったんだ」と言ってみたりして、失敗を人のせいにして、自分で責任をとろうとしなくなるかもしれません。

5. 親が忙しくなる

不必要な手伝いをしているひと、ひどく忙しい生活になってしまいますよ。